



学校法人 先端教育機構

社会構想大学院大学

JR高田馬場駅 徒歩 3分 社会構想

【実務教育研究科】

学 位：実務教育学修士(専門職)

修業年限：2年間

授 業 日：平日夜間・土曜日

入学時期：毎年4月

入学定員：30名

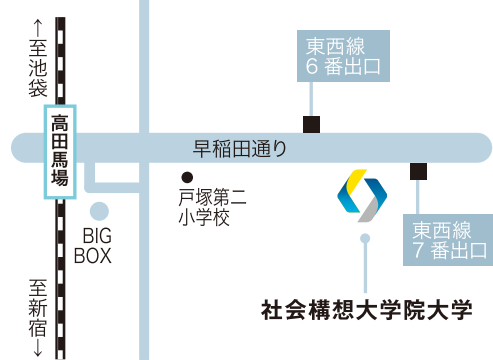
校 舎：東京(オンライン受講可)

学 費：入学金10万円、授業料110万円(単年)

対 象

1. 専門職大学などの高等教育機関で実務家教員を目指す者
2. 暗黙知(組織に偏在する固有の知)を体系化し、継承可能な形式知にしたい者
3. 組織内人材育成プロフェッショナルを目指す者
4. 人事部門、教育事業の新規開発担当者
5. 民間教育産業の新規開発担当者・教育事業の担い手

案内図



東京メトロ 東西線 高田馬場駅 7番出口 徒歩1分

JR山手線・西武新宿線 高田馬場駅 早稲田口 徒歩3分



この印刷物は、FSC®森林認証紙、ベジタブルインキを使用し、水なし印刷方式で印刷しています。

2022.10



社会構想大学院大学

The Graduate School of Social Design

教育・人材育成の プロフェッショナルへ

この時代になぜ、 リカレント教育が必要か。

変化の激しい社会でわれわれが直面する課題は、積み上げられてきた堅固な学術的知識だけでも、日々の業務で培う実践の場での経験や知識だけでも、容易に解決できるものではありません。あらゆる知識を進化・融合させ、課題解決のための新たな知識を創造することが求められます。高度化した社会を支えるためには、「実践と理論の融合」に取り組む人材が必要不可欠なのです。高等教育や専門職教育を中心に、高度な実務能力と最先端の学術知識をあわせ持つ「実務家教員」の重要性がますます高まっている背景には、こうした状況があるのです。

いま求められる 「実務教育」のプロフェッショナル

そうだとするとこれからの社会では、自らが特定の実務領域の専門家となるだけでなく、既存の学術知と自らの実践知を融合し、新たな知の体系を構築したうえで、それを普及・伝達・継承する能力があらゆる領域において求められているといえます。あなただけの知識を社会の財産へと昇華するための学びの場。実務教育研究科は、これからの社会を支える新しい学びをともに作り出す人材を養成しています。

実践知の プロフェッショナルへ

社会構想大学院大学 実務教育研究科は、
実務領域に関する教育・人材育成の高度専門職業人を養成する
社会人向け専門職大学院です。

「Society5.0」「人生100年時代」「知識社会」といった言葉で表現される現代社会では、
自らが実務領域の専門家となるだけでなく

実務経験を新たな知の体系へと昇華させそれを伝達・継承する能力が、
あらゆる領域において求められています。

本研究科は今後の知識社会を支える基盤となる
実践知のプロフェッショナルの育成に取り組めます。

実務教育研究科の活動領域

教育・人材育成分野の理論と最先端の知見を学びつつ、新たな学びを社会に提供できるリーダーとなるため、
修了後のゴールイメージにあわせた3つの領域において教育・研究活動を行っています。

3つの研究領域

実務家教員



知識社会領域

高等教育や職業教育についての専門的な
知識を学ぶとともに自らの実務経験を他
者に伝達可能な形式知に変換する手法を
習得し、効果的な学習プログラムの編成
を追求します。
大学等で教員として活躍するための実践
的な能力を身につけます。

人材開発の専門家



組織学習領域

組織論や人材育成、知識経営の理論を学
び、個別の組織において必要とされてき
た暗黙知を掘り起こします。それをもとに、
知識継承に必要な組織の在り方や教育プ
ログラムを考案する力を養成。
人材開発のみならず、組織の活性化を担
う人材を育成します。

新規教育事業開発



教育構想領域

教育制度や現代の教育課題、また教学マ
ネジメントに必要な知識を俯瞰的に捉え
たうえで、新たな教育コンテンツの開発
やそのマネジメントについて理論と実践
の両面から学習。
教育に新たな風を吹き込むパイオニアを
目指します。

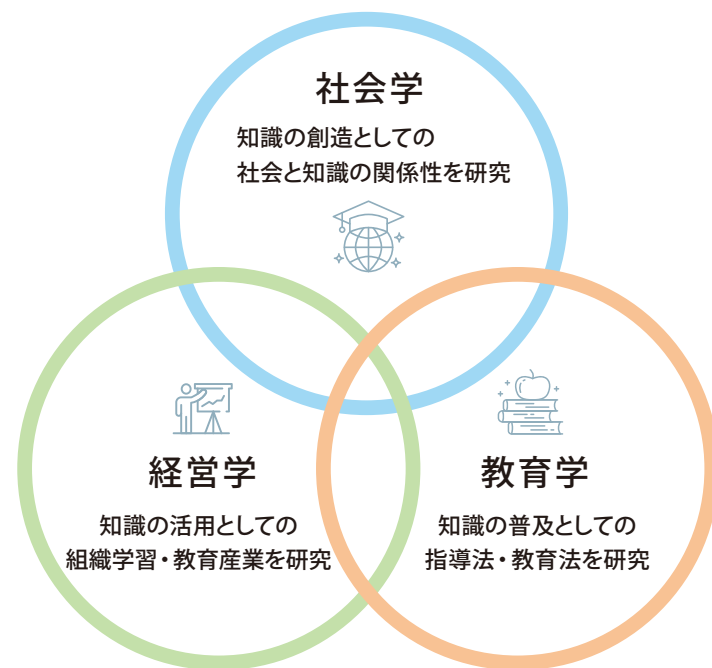
ディプロマポリシー(学位授与の方針)

研究領域

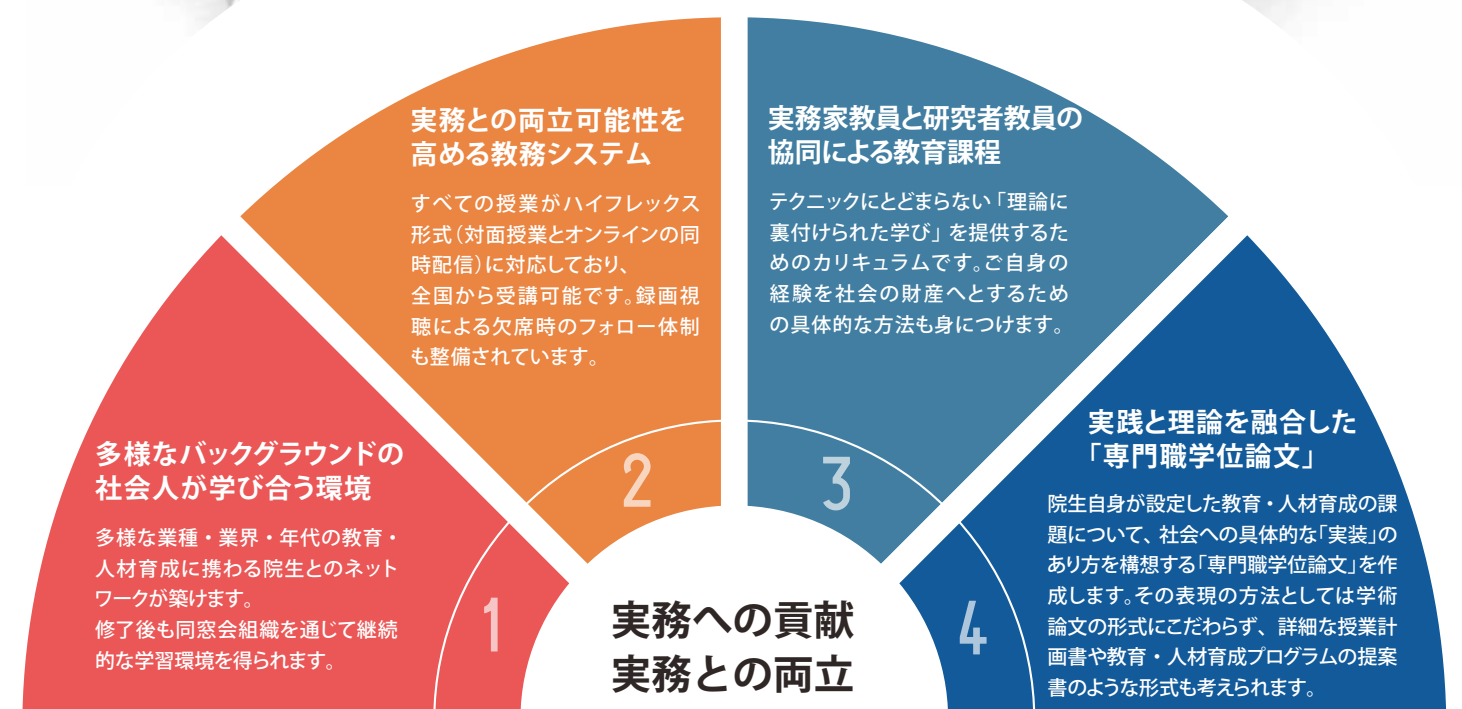
1 自ら携わる実務や組織、産業の領域における固有の知識
の社会的布置を、経験的な調査に基づき、社会の動向と
の関連で理解し、反省的(リフレクシブ)に問い直すことが
できる(問題を発見し、実証的調査を行う能力)。

2 自ら携わる実務や組織、産業の領域における経験や暗黙
知を、社会学や教育学の理論に基づいて、論理的に言語
化・体系化することで人類共通の知識として参照・比較
可能な形式知に変換し、実践の場での活用と深く結びつ
いた固有の理論を創造できる(理論的に思考する能力)。

3 自ら携わる実務や組織、産業の領域における実践と深く
結びついた固有の理論を効果的に伝達・普及するための
実行可能なプログラムを構想できる(社会を構想し提
言する能力)。



2年間の「学び直し」を支える体制



あなたに合わせて学べるカリキュラム

関連する領域を網羅する科目編成

基礎科目

知の理論
社会学基礎理論
教育学基礎理論
人材育成の基礎
現代社会論
実践研究法Ⅰ・Ⅱ

専門基礎科目

知識社会学
教育社会学
産業社会学
組織論
認知学習論
教育サービスの現状と未来
生涯学習の理論と発展
生涯学習支援論
教育産業と教育事業
心理と学習のフロンティア

専門科目

知識社会領域	省察的实践
	実践と理論の融合
	知識・教育・社会
組織学習領域	専門職教育論
	学習する組織
	ナレッジ・マネジメント
教育構想領域	現代社会と人的資本
	コーチングとファシリテーション
	グローバル・ラーニングイノベーション
	教育コンテンツ開発
	教育のマネジメントの理論と実践
	ICTと教育

教育実践科目

実践教育プロジェクト

インストラクショナル・デザイン

成人教育・学習論

実務家教員のキャリア開発

展開科目

探究基礎演習 (1年次共通)

探究演習 (2年次選択)

知識社会学
学校経営デザイン
インストラクショナル・デザイン
産業社会学
教育学
教育産業と教育事業
組織論
教育社会学

専門職学位論文とは？

実務教育研究科では、2年間の学びの集大成として修士論文に相当する「専門職学位論文」を執筆します。執筆のための研究指導は1年次のゼミである「探究基礎演習」、2年次のゼミである「探究演習」を通じて行われます。「専門職学位論文」では、院生自身が設定した実務の領域における課題について、知識社会学や教育学等の社会科学的な知見を踏まえたうえで、社会への具体的な「実装」のありかたを構想します。

実務教育研究科には、実務における暗黙知・経験知を言語化・体系化し、他者と共有可能な新たな知識としてまとめ、社会に実装しよう、社会に貢献しようという同じ志を持った院生が集まってきます。同じ志を持っていますが、各々が実際に関わっている実務の分野は様々です。異なる分野、多様な背景の院生同士が議論をすることを通じて、それぞれが自らの実務を改めて見つめ直します。

字数の目安は4万字で「探究基礎演習」「探究演習」さらには計4回の報告会・審査会を経て少しずつ書き進めていくことになります。

目的にあわせて専門性を極めるための3領域

実践知を体系化する 実務家教員としての キャリアを歩みたい

知識社会領域：実務家教員

- 学位論文テーマ
- ・「いまここをつくりだす」技法の研究
- ・グローバル人材へのキャリア発達プロセス
- ・知識基盤社会における人権学習の位置づけと役割

●研究の目的・ゴールイメージ

知識社会において自らの実務経験を普及・伝達する主体たる実務家教員として活躍するためには、このような科目を履修することが想定されます。

自身の実務領域を省察的・俯瞰的に捉え直し、既存の学術体系における位置づけを整理しつつ、それを新たな知識として体系化します。そのうえで、学習者の特性に応じた適切な教育プログラムを構想し、実践知を継承するための能力を身につけます。

組織内学習のための 研修制度や教育体系、 コンテンツを開発したい

組織学習領域：人材開発の専門家

- 学位論文テーマ
- ・営業の知の学問的体系化
- ・大人の学びと成長実感
- ・研修転移の心的プロセス

●研究の目的・ゴールイメージ

企業活動の活性化と持続性向上を実施する組織内人材育成のプロフェッショナルとなるためには、このような科目が役立ちます。

組織に遍在する知識を収集・体系化し、新たな組織内学習システムを構築するための理論と方法を修得します。また、企業等の組織において教育活動を行うために必要となる、組織論やマネジメントの知見を身につけることで、人材開発や教育プログラムの実現可能性が担保されます。

社会のニーズをふまえた 効果的かつ持続可能な 教育事業を展開したい

教育構想領域：新規教育事業開発

- 学位論文テーマ
- ・新たな学習塾設置とカリキュラム構想
- ・学びの場とイノベーションを促す方策
- ・SDGsの高校教育現場への実装

●研究の目的・ゴールイメージ

効果的・実現可能・持続可能な教育事業や教育プログラムの担い手となるためには、このような科目が基礎となるでしょう。

教育サービスの現状や、多様な領域における学びの最新動向について学修することで、今後社会で必要とされる具体的な教育コンテンツがいかなるものか考えるための視点を手に入れます。こうした知見を踏まえたうえで、具体的な教育コンテンツを構想するための方法論を身につけていきます。

履修モデル

実務教育研究科は、知識社会学や教育学を中心とした学術的知見を踏まえて、実務教育において核となる「実践知の体系化とその普及・活用」を実現する能力を醸成しつつ、育成する人材像に対応した3種類の履修モデルを紹介します。

知識社会領域					組織学習領域				
実務家教員として実践知を体系化する					人材開発の専門家として組織の活性化を担う				
	1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期		1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期
展開科目	探究基礎演習		探究演習		展開科目	探究基礎演習		探究演習	
専門科目		省察的実践	知識・教育・社会 実践と理論の融合	専門職教育論	専門科目		学習する組織	コーチングと ファシリテーション ナレッジ・マネジメント	現代社会と人的資本
教育実践 科目	実践教育プロジェクト	インストラクショナル・ デザイン	成人教育・学習論	実務家教員の キャリア開発	教育実践 科目	実践教育プロジェクト	インストラクショナル・ デザイン	成人教育・学習論	
専門基礎 科目	心理と学習の フロンティア	知識社会学			専門基礎 科目		組織論 産業社会学		
基礎科目	知の理論 社会学基礎理論				基礎科目	知の理論 人材育成の基礎	現代社会論		

教育構想領域				
社会のニーズを捉え新たな教育事業を展開する				

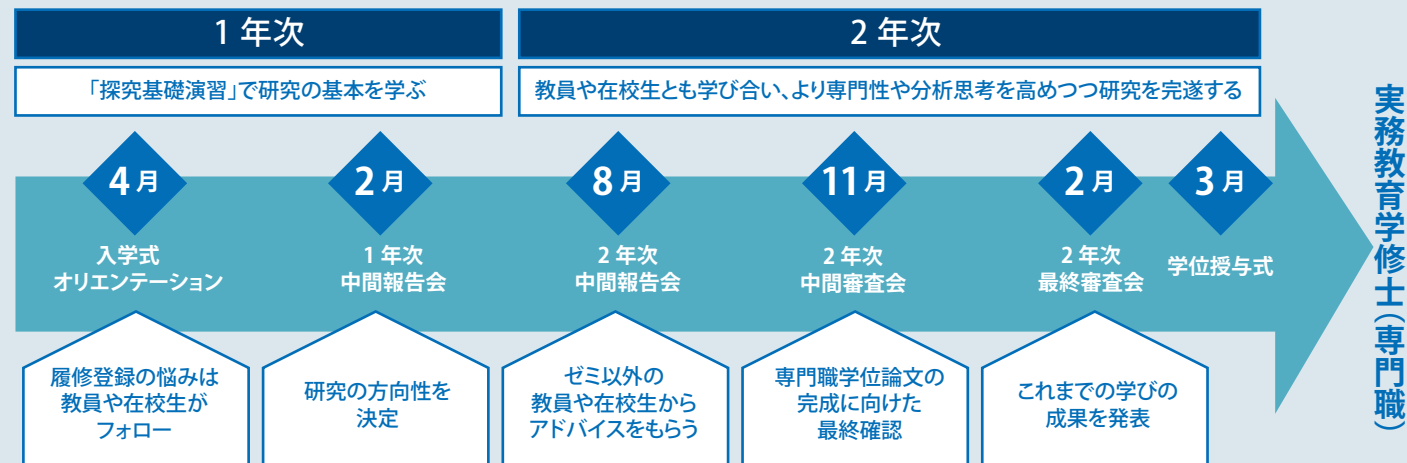
教育事業					社会教育				
	1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期		1 年次前期	1 年次後期	2 年次前期	2 年次後期
展開科目	探究基礎演習		探究演習		展開科目	探究基礎演習		探究演習	
専門科目		グローバル・ ラーニングイノベーション	教育のマネジメントの 理論と実践 教育コンテンツ開発	ICTと教育	専門科目		グローバル・ ラーニングイノベーション	教育のマネジメントの 理論と実践 教育コンテンツ開発	ICTと教育
教育実践 科目	実践教育プロジェクト	インストラクショナル・ デザイン			教育実践 科目	実践教育プロジェクト	インストラクショナル・ デザイン		
専門基礎 科目	教育サービスの 現状と未来	教育産業と教育事業 認知学習論	心理と学習の フロンティア		専門基礎 科目	生涯学習の理論と発展	教育社会学 生涯学習支援論	心理と学習の フロンティア	
基礎科目	知の理論 教育学基礎理論				基礎科目	知の理論 教育学基礎理論			

授業紹介

川山竜二 研究科長	
知の理論 (必修科目)	理論と実践を融合し「知の理論」を実践的な教育体系に組み込む 「知の理論」とは、「知識についての知識」についての基本的な知識の捉え方や学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味する知の体系の総称です。知の理論は、国際的には Theory of Knowledge として知られ、教科を超えた思考を養成するための教育プログラムとして大いに注目を集めています。本授業では、あらゆる「知」そのものについて考察したうえで、理論と実践を融合し、「知の理論」を実践的な教育体系に組み込む方法について検討します。
伴野崇生 准教授	
インストラクショナル・ デザイン	効果・効率・魅力の観点から「教え方」をデザインする 学習者が学習の目的や目標を達成できるようにするためには、教師や研修担当者は教育プログラム全体について効果・効率・魅力を総合的に高めていく必要があります。また、そのためには、学習方法から効果測定までの全体を通した仕組みづくりが不可欠です。本授業では、「いい教育」「優れた教育実践」像を見つめ直し、インストラクショナル・デザイン (ID) のさまざまな理論やモデルを学びながら、効果的で効率的、かつ魅力的な学習環境や教育・研修のデザインができるようになることを目指します。
田原祐子 教授	
ナレッジ・ マネジメント	「暗黙知」を「形式知化」し、競争力のあるナレッジ戦略を探る 変化の激しい時代において、新しい知恵やビジネスを創造する力がより重要となってきました。本授業では、人・組織・企業・社会に潜む、知恵やノウハウといった「暗黙知」に気づき、それらを「形式知化」しながら組織へ社会でスパイラルアップしていくという、ダイナミックでエキサイティングなプロセスを通して、実践的ナレッジ・マネジメント (Knowledge Management) の導入・活用法を理解・修得していきます。
坂本文武 教授	
組織論	企業と社員との関係性を再考し、現代社会における組織をデザインする 「組織」は人の集合体であり、人を扱う担当者は組織の本質やジレンマを俯瞰して理解する必要があります。本授業では、株式会社とはなにか、企業が何のために存在しているのかなど本質的な問いに向き合い、組織の構造的要素や構造的課題を理解することで、企業と社員との関係性を再考し、現代社会における組織デザインの方法について学びます。
廣政愁一 教授	
教育コンテンツ開発	現代社会が求める教育コンテンツを構想する 教育事業や新たなスクールの立ち上げには、マネジメントのみならず、何を教えようとするのかといった教育コンテンツや学習サービスの設計が必要となります。本授業では、塾や予備校、ビジネススクール、あるいは教育ベンチャーや人材研修といった主体について、学習サービスの設計を通じて、持続可能な教育コンテンツの条件や実現可能性について検討していきます。

入学から修了までの流れ

ハイフレックス(対面+オンライン)授業のため全国から受講でき、オンラインでも修了可能
オンラインによる欠席時の動画フォロー・教員との個別相談体制も完備



院生の声

自身のプロジェクトを整理し、
より“価値のあるもの”とするために

佐藤 里美 さん
実務教育研究科 1 期
ソフトバンク株式会社
魔法のプロジェクト ディレクター



岡山からオンライン授業を受講
実務家教員としてさらなる知識の入手と
アップデートを目指す

宮前 善充 さん
実務教育研究科 2 期
大学教員



◆入学のきっかけは?

10 年を超え携わってきたプロジェクトを整理し、より“価値のあるもの”とするために学びたいと思いました。また、プロジェクトで関わる子どもたちが成長後に出て行く社会、求められる力を予測してプロジェクトの方向性を見直したいと考えました。

◆入学後に感じた良かったことは?

なんととっても人脈です。先生達との距離がとても近く、贅沢にご相談の時間を割いていただけます。そして一緒に学び合う院生の仲間達がいいます。様々な業種、経験を持つ方々の実務経験を伺い、意見をいただくことで視野が広がります。

◆ご自身の業務において役立っている授業、

もしくはおすすめしたい授業はありますか?

おすすめの授業は川山先生の「知の理論」と「知識社会学」です。なんとなくわかっているつもりでいた事が、実は正しく捉えられていなかったと痛感させられました。「凄く価値がある」としか言いようがありません。ご紹介いただいた「知識の社会史」は愛読書になっています。

◆今後の目標、意気込みをお願いします!

自身の考えを言語化、体系化し、知識の不足を感じ補っていくことでアメーバのように自身の知識が広がり、視座が高くなっていくのを感じています。特に社会学は大変面白く、自身の論文のテーマである ICT で「拡張された力」、この力を使う学校や職場などの環境がどのように受け止めるのかについて「障害社会学」も研究に加え論文としていきたいと思っています。

◆入学のきっかけは?

前職在職時、実務家教員養成課程に参加し、教員という職業に関心を持ちました。実際に大学教員に転職し、教える内容や、学生の学びの理解不足を実感したため、教育に関する学び、研究ができる本学に入学を決めました。

◆オンライン授業を受講され感じていることは?

岡山で教職に就いているため、オンライン授業を受講できることは、非常にありがたいです。何と言ってもメリットは、岡山からリアルタイムで受講できることと、講義の振り返りができることです。

◆ご自身の業務において役立っている授業、

もしくはおすすめしたい授業はありますか?

役立っている授業は「知の理論」と「実践と理論の融合」です。体系的、具体的な教えるのスタイルと、自らの経験の活かし方などを自身の講義の参考にしています。おすすめは「組織論」です。コミュニケーションデザイン研究科の方も多数受講する刺激的な講義で、多種多様な分野の院生と意見交換できることは大きなメリットです。

◆今後の目標、意気込みをお願いします!

今後の目標は、まず基礎知識を固め、問いや意見を発信して、授業に貢献することです。思いつきレベルの発言を、理論や論理を踏まえたものに改善していきたいです。また、テーマである「実践的な教育手法」について、より研究を深めたいです。同じ研究テーマの方もいらっしゃるの、その発言などに注目しています。そして、各先生からいただく研究や学びのヒントをチャンスとして生かし、実務家教員として常に自己の思考スタイルをバージョンアップさせ続けたいです!

教員紹介

研究科長あいさつ

継承するのは、各業界で蓄えた「実践知」。
第一線で活躍する教員たちに学ぶ。

「知識社会」と呼ばれる現代社会において、あらゆる場面に遍在する「暗黙知」を一般化可能な形へと昇華し、それを普及・伝達するための能力を身につけることは必要不可欠です。
実務教育研究科では、業界の第一線で活躍されている実務家教員や同領域における優れた研究実績を有する研究者教員が、知識の「フォロワー」ではなく「リーダー」を目指すための学びを提供してまいります。
業務上の課題や問題意識を新たな方法で解決しようとする方をはじめ、社会人としての学びや研究、キャリアアップを目指す皆様に、大学院教職員一同歓迎いたします。

社会構想大学院大学
学監・実務教育研究科長

川山 竜二

専攻は知識社会学、高等教育・大学論。筑波大学人文社会科学研究科修士。筑波大学ティーチング・フェロー(TF)、リサーチ・フェロー(RF)を経て、事業構想大学院大学客員教授、武蔵野大学法学研究科客員教授、専門職大学等創設プロジェクト研究、実務家教員、リカレント教育等に関する公職を歴任。



最先端の実践と理論を架橋する教員陣



蔵田 實 教授



廣政 愁一 教授



坂本 文武 教授



田原 祐子 教授



富井 久義 准教授



伴野 崇生 准教授



眞崎 光司 専任講師



吉岡 三重子 助教



荒木 貴之 客員教授



本間 正人 客員教授



山田 未知之 客員教授



石崎 友規 客員准教授